

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590700039		
法人名	株式会社 周南調剤		
事業所名	グループホーム 元気		
所在地	山口県下松市大字山田256番地		
自己評価作成日	平成23年11月15日	評価結果市町受理日	平成24年6月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成23年12月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

秋祭り、クリスマス会、昼食会など、家族の参加する行事を通して家族との連携、また家族同士の情報交換の場ともなっている。2～3ヶ月に一度、元気だより、行事報告と写真をまた施設内での様子をお知らせするため、家族に送付している。
中学生ボランティア、中学生の福祉体験学習、介護福祉学生の実習も受け入れている。
利用者一人ひとりの思いを大切に、散歩やドライブ、ときにはランチに出かけている。自宅に帰って食事をしたり、家族が施設で一緒に食事をしたりと、できるだけ家族で過ごす時間が持てるよう支援している。時には利用者といっしょにお菓子を作ったり、誕生日には利用者がケーキに生クリームやフルーツでデコレーションして、職員も一緒にお祝いをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりに合わせた楽しみごとや活躍できる場面(フットマッサージ、アロマセラピー、ドッグセラピー、ミュージックセラピー、テレビ体操、エレクトーン演奏、テレビ視聴、散歩、買い物、ドライブ、おやつづくり、食事の準備、後片付けなど)を作り、利用者が張り合いや喜びのある日々が過ごせるように取り組んでおられます。災害時の地域との協力について運営推進会議で話し合われ、年2回の避難訓練に地域住民が参加されるなど、協力体制を築くように努めておられます。運営推進会議時に災害時の対策として備蓄しておられる非常食の試食会を行なわれたり、防災の日や阪神大震災の日利用者と職員で非常食の調理実践と試食を試みられるなど、災害に備えておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で、利用者の尊厳を大切にしながらその人らしい生活を支援していく。施設内研修やカンファレンス等で理念について話し合う機会をもち、その理念をスタッフ間で共有し実践できるように努めている。	事業所独自の理念を作り、月1回ミーティングで理念の確認をして全員で共有し、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的にお互いに声をかけており、行事の際は協力してもらっている。近隣地域との連携や支援体制があり、火災発生時の避難訓練には地元住民の参加もある。	中学校のボランティア部の生徒の訪問や、小中学生の体験学習、地域ボランティアなどの訪問があり、利用者と交流している。地域交流会(秋祭り)では地域住民によるフリーマーケットや喫茶コーナー、小学生による和太鼓の演奏などがあり、利用者の楽しみの一つとなっている。日ごろから地域との関わりが深まるように努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流会には小学生が和太鼓の演奏、アルコイリス、フルート演奏などボランティアが参加している。中学生ボランティアや福祉体験、介護福祉学生の実習の受け入れ等を通じて地域の暮らしの向上に努めている。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	昨年の外部評価の結果を活かして改善内容を検討し、具体的な改善に取り組んでいる。毎月ミーティングを開催し、内容別に担当職員を決めて施設内研修を行い、マニュアルの作成や改善を行ない、サービスの向上を図っている。	評価の意義を理解して全職員で取り組んでいる。自己評価を活かして利用者の思いの把握を明確にするためアンケートなどの取り組みをしている。外部評価結果についてミーティングで話し合い、運営推進会議を2ヶ月に1回開催するなど、できるところから具体的に改善に取り組んでいる。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催している。運営推進会議で活動報告、行事報告、外部評価の説明など行っている。施設内事故について報告し再発防止についての取り組みなど検討した。各委員も積極的に発言され、意見をもとに改善を図っている。	2ヶ月に1回開催し、事業所の状況や活動報告、外部評価結果報告などをし、テーマを決めて話し合っている。事業所内の事故報告を行い、再発防止についてなど活発な意見交換をし、出た意見を運営に活かしている。災害時用に備蓄している非常食の試食会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは、利用状況等について報告を行い、事業所の実情やケアサービスの取り組みを必要に応じて相談して協力体制を築いている。 2ヶ月に一度来られる介護相談員さんのフィードバックを受けて改善点を職員で検討している。	市の担当とは日頃から電話や出向いて、情報交換をし助言を得るなど、協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について研修し職員で話し合っている。1階に下りる階段は危険防止のため施錠しているが、エレベーターと1階玄関は施錠していない。目配りが届かないときは安全への配慮からエレベーターを施錠するときもあるが、常時施錠することがないよう配慮している。	マニュアルがあり、ミーティングの中で研修を行い、職員は、身体拘束について正しく理解しており、拘束や抑制のないケアに取り組んでいる。玄関やエレベーターは施錠していない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待が行われていないか注意を払うとともに、虐待防止については勉強会をもち、職員間で意識の向上を図っている。高齢者の尊厳遵守について、研修等で理解を深めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護や成年後見制度について職員各自が資料等で学んでいる。必要と思われる人には社会福祉士に相談したり、これらを活用するように包括支援センターと連携し支援している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約および解約時において、文書にもとづき利用者、家族等に説明し理解と同意を求めている。 ゆっくりとした時間をもち、利用者や家族の不安や疑問点について具体的な説明を行ったうえで契約していただいている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員に寄せられた意見や、運営推進会議で出された意見は前向きに取り組んでいる。 面会の際や随時の連絡などで家族の話を積極的に聞き取り、カンファレンスで検討し日々のケアに反映させている。	2か月に1回、介護相談員が訪問し、利用者から話を聞き、事業所に報告している。運営推進会議時や面会時や電話での連絡時などに家族から意見や要望を聞き運営に反映させている。相談や苦情の受付体制、処理手続を定め周知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングに施設長が参加しており、議題によっては随時運営者も参加する。運営者、施設長、職員ともに日常的に意見を言いやすい環境があり、状況によって運営者は柔軟に対応している。	毎月のミーティングで職員の意見や提案を聞く他、アンケートの実施や日常的に意見を聞き運営に反映させている。年2回代表者が職員から意見を聞く機会を設けている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は頻繁に現場を訪れ、職員の話をよく聞き、状況を把握している。職員の努力や実績を評価し、給与や賞与に反映させている。年休消化に努めるとともに職員の体調の悪い時は随時勤務を調整している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回行うミーティングで内部研修を実施し、また外部研修への参加、資格取得への協力体制、資格手当等、スキルアップにつなげるよう取り組んでいる。	外部研修は勤務の一環として参加の機会を提供する他、職員個々の資格取得の支援をしている。内部研修は月1回のミーティングの後に行い研修計画(テーマを決めて)にそって職員が交替で講師を務め実施している。新人職員には、日々のケアの中で主任が指導し、働きながら学べるように取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホームにて連絡会を立ち上げ、2ヶ月に1回、情報交換会を開催している。各施設持ち回りで交流・勉強会を実施している。また、県の協議会にも入会し、会議に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前訪問し利用者の困っていること、不安なことに耳を傾け、不安を軽減するとともに信頼関係をつくるよう努めている。また入居後の生活の場を見学し、利用者が納得し少しでも不安が解消できるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に事前訪問し家族の困っていること、不安なことに耳を傾け、不安を軽減するとともに今までの介護の苦勞に対しねぎらいの言葉をかけ、信頼関係をつくるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在受けているサービスがあればその担当者、入院中であればSW等、関係機関からの情報収集を行い、早急な対応が必要な利用者には、可能な限り柔軟な対応を行い、適切なアドバイスをを行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	エレクトーン演奏、壁画づくり、ぞうきんを縫う、食器を洗う、掃除を手伝う、洗濯物をたたむなど生活の場で活躍していただき、職員は感謝の気持ちを利用者伝えていく。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が気軽に来やすい雰囲気づくりをしている。随時、日頃の様子を家族に報告・相談しながら、家族と職員が一緒に悩んだり考えたりしながら、ともに利用者を支えあう関係づくりを心がけている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が気軽に面会に来れるように雰囲気づくりをしている。また外泊や自宅に帰って食事を摂ったり、かかりつけの医院に通院している。また家族と話す機会をもち、昔の趣味や生きがいなどについて情報を得ている。	馴染みの美容院の利用、買い物、かかりつけ医への受診、外食、外泊、旅行など家族の協力を得て支援する他、友人、知人の訪問もあり、利用者の馴染みの人や場との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で話をしたり、助け合ったりしている。職員は、利用者同士の会話が弾むよう、相性を考慮したグループ分けや席順等を配慮している。トラブルの際は雰囲気を和ませるよう働きかけをしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等により解約になっても、必要に応じて関係機関を含めて利用者や家族と関わりをもっている。住み替えになった場合、本人の状況、習慣、好みこれまでのケアの工夫等の情報を文書や口頭で詳しく伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で利用者から出た言葉を個人記録に言葉のまま書きとめたり、昔の写真を見て話をし、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は利用者の表情から気持ちを汲み取り、または家族から聞き取り、職員で話し合っている。	日々のケアの中で利用者の声に耳を傾け、聞き取った言葉や行動を介護記録に記録する他、アンケートをとり、一人ひとりの思いの把握に努めている。困難な場合は家族から聞き取り、本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、今まで担当したケアマネジャーなどから生活歴について情報を得たり、さらに面会時に家族から話を聞くなど積極的に情報収集に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報にとらわれず、できること、わかる力を本人の生活から感じ取り、本人の全体像を把握するよう努めている。個々にできることに注目し、役割を持って過ごしていただけるように工夫して支援している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者と家族の希望を聞き、介護計画を作成している。6ヶ月に1回モニタリングをしている。状態に変化があったときは介護計画の見直しを行い、職員間で情報共有するよう努めている。	申し送り時にミニカンファレンスを開く他、随時カンファレンスを開催し、利用者の状態や利用者、家族の意向、受診時の主治医の意見などを参考にして話し合い介護計画を作成している。6ヶ月に1回モニタリングを実施し、利用者の状態に合わせて見直しを行なっている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの日々の様子やケアの実践について個別にファイルを作り記録している。状態に変化があったときは随時カンファレンスをもち、ケアの具体的方法を検討するとともに介護計画を見直ししている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関と連携をとり、受診や入院の回避、早期退院の支援、重度化した場合や終末期の入院の回避など本人や家族の意向をもとに柔軟に対応している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア（歌、大正琴、中学校ボランティア部など）やミュージックセラピーなど心豊かな生活が送れるよう支援している。 海や湖までドライブしたり、時には市内のレストランでランチを摂るなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者はかかりつけ医に定期的に受診している。必要に応じてサマリーや血圧の記録を届けている。体調不良時には主治医と連絡を取り、状態報告し受診に同行したり往診を依頼している。	利用者のこれまでのかかりつけ医への受診の支援をしている。家族同行の受診が基本であるが、不可能の時や必要時には職員が同行し、情報提供する他、往診に来てもらうこともあり、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、体調不良やバイタルサインに異常があるときは看護師に報告している。夜間においても、看護職と連携を取り対応しており、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、サマリーを作成し情報提供を行っている。入院中は病院のSWや家族から情報を得て早期退院ができるように努めている。また、職員がこまめに面会に行くことで利用者の不安軽減やタイムリーな情報収集ができています。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について、本人および家族の思いを確認するとともに、看護師が家族、主治医と連携をとり看取りについて相談、具体的な打ち合わせを行った。11月に1名看取りを行った。	重度化や終末期のあり方について、契約時に口頭で家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族に状況悪化に伴う事前要望書を提出してもらい、終末期の意向確認書を基に話し合い、本人、家族、主治医、看護師、関係者等で方針を共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	転倒、誤薬、行方不明、火災発生時の事故防止の研修を行い、対応マニュアルを作成し、施設内に掲示している。また、リスクマネジメントのハード面(施設設備など)での改善について職員に気づきを募り、設備の改善を図っている。なお、初期対応については訓練を行っていない。	ヒヤリはっと、事故報告書に記録し、その場にあった職員で対応を話し合い、ミーティングで事故事例の検討をして一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応の定期的な訓練は実施していない。	・全ての職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民も参加して、昼間と夜間を想定した火災時の避難訓練を年2回実施している。災害時の対策として、非常食(20人×3日間分)と水を備蓄しており、防災の日に調理の実践と試食を行っている。	年2回、火災時避難訓練(夜間想定を含む)を地域住民の参加を得て実施している。地域との協力体制を築いている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が利用者に向けて発している言葉の内容や語調等が利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねているときは、職員で互いに注意しあっている。	理念に基づき、利用者を人生の先輩として敬意を払い、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないように、日常的に注意しあって取り組んでいる。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や願いを意図的に引き出すことは、日常的にしているとはいえないが、できるだけ本人の希望に添うようにしている。思いを否定せず、利用者の自由な思いを表出できるように努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、利用者の「思い」を重視している。行事や外出の際、体調や気分によって参加が難しいときは、無理強いせず、ご希望にそった過ごし方をしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を月に1度依頼している。訪問理美容を利用させる方、いきつけの美容院を利用される方等、みだしなみについては利用者の「思い」を重視し可能な限りそれを支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼夕は管理栄養士の献立により厨房で調理された料理が配食され、盛り付けや配膳片付けを利用者とともにやっている。朝食は職員が調理しており、時には昼食、夕食も手作りしている。	利用者は台拭き、盛り付け、配膳、下膳、食器洗いなど、一人ひとりのできることを職員と一緒にしている。月に1回昼食を利用者と職員でつくり楽しんでいる。誕生日には利用者の好きなメニューにしたり、手づくりパンでパンバイキングをしたり、外食(レストラン、サービスエリアなど)や出前をとったり、食事が楽しみなものになるように工夫している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士を配置し、栄養バランスのとれた献立で対応している。軟菜・きざみ・ミキサーと利用者個々が食べやすい食事形態で提供し、食事量・水分量をチェックしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方には声掛け・誘導を行い、できない方にはご本人の状態に応じた口腔ケアを行っている。また、歯ブラシ・義歯ケースなどの洗浄・消毒・保管の支援も行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、さりげない声かけや誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。失敗してしまった場合も、極力本人が傷つかないように手早く、周囲に気づかれない等の配慮をしている。	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導でトイレでの排泄を支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のための体操や、トイレに行くタイミングをはかる、いきみの姿勢や水分摂取などで対応している。それでも排便困難のときは、内服薬で調整している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望や生活習慣に合わせて入浴を計画している。午前中に入浴することが多いが、午後も対応している。入浴を拒否される場合は、無理強いせず、タイミングをみて再度声かけするか、清拭・足浴で対応することもある。	10時30分から昼食前と、14時から15時の間、入浴可能であり、一人ひとりの状態やタイミングに合わせてゆっくり入浴を楽しめるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外出・入浴などで疲労がみられる場合は、適宜休息がとれるよう援助している。居室の温度・湿度にも配慮し、エアコンや加湿器の管理も行っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報をファイリングし、常時確認できるようにしている。看護師が利用者の服薬一連の管理を行っており、必要に応じて、医師や薬剤師とも連携を取っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生け花、エレクトーン演奏、縫い物、料理、洗濯物を干したりたたんだり、配膳、食事の後片付けなどお願いできそうな仕事を頼んだり、感謝の気持ちを伝えている。	フットマッサージ、アロマセラピー、ドッグセラピー、ドールセラピー、ミュージックセラピー、テレビ体操、エレクトーン演奏、テレビ視聴（歌番組、ドラマ、スポーツなど）新聞を読む、日記を書く、縫い物、散歩、料理、配膳、おやつ作り、食器洗い、洗濯物干し、洗濯物たたみなどの楽しみごとや活躍できる場面を作って、利用者が張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩や花見、もみじ狩りなど季節ごとのドライブや事業所周辺の散歩・買い物と戸外に出かけている。近隣のレストランで外食（ランチ）も不定期だが企画している。	近所の散歩や買い物、ドライブ（季節ごとの花見やもみじ狩り、外食）など戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる人はお金を所持している。職員が預かるときは、個別に用途や残高を記録している。利用者が希望する時にお金を使えるように支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望されたら、自ら電話ができるように支援している。使い慣れた携帯電話を持参している利用者もいる。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は居心地のよい環境作りに心がけている。換気や消臭については常に配慮し、また温度計湿度計を置き、居心地よい温度調節に心がけている。リラックス効果を期待して、音楽や香りを楽しむこともある。	共有空間は広々として明るく、床暖房になっており、温度、湿度、換気にも配慮している。季節感のある作品を壁に飾ったり、季節の花を活けたり、テレビやテーブル、ソファを配置しており、ゆったりと居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人ひとりが思い思いに過ごせるように、ソファやテーブルの配置を考え、また利用者同士の関係性に配慮し、居心地の良い場所の提供を工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋に洗面台が設置してある。利用者はタンスやカーテン、テレビ等を搬入し、花を飾ったり家族の写真を置いたりしてその人らしく安心して過ごせる居室となっている。	ベッド、小タンス、カーテン、洋服掛け、テレビ、椅子などを持ち込んでいます。人形や家族の写真、カレンダー、花などを飾り、安心して過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、浴室、脱衣所に手すりを増設したり、トイレトーパーホルダーの位置を変えたり、できるだけ自立した生活が送れるよう支援している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム元気

作成日： 平成 24年 6月 6日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全ての職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的な訓練が実施されていない。	全ての職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的な訓練を実施する。また、全ての職員がAEDの使用方法及び心肺蘇生法の講習を受ける。	熱傷、切創、窒息や骨折などの応急処置についてのマニュアルを作成し、研修と対応の訓練を実施する。消防に普通救命講習を依頼する。	1年
2	36	地震、水害時等の災害時の防災マニュアル作成や防災訓練が実施されていない。	地震、水害時等の防災マニュアルを作成し、防災訓練を実施する。	山口県の「福祉・医療施設防災マニュアル作成指針」を参考に防災マニュアルを作成し、防災訓練を定期的実施する。	1年
3	5	利用者の状態に合わせて手すりに位置など改善を要す。	手すりの位置を検討し、利用者の安全確保に努める。	危険場所や手すりの位置などを職員間で話し合い改善する。	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。